【歴史総合】

～ClassPad.net のファイルふせん・グラフ機能を活用する～

地図に刻まれた歴史を読み解く授業

アフリカにおける直線の国境について考える

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：1984～85 年のベルリン会議によって引かれた人為的な国境線が、現地の民族分布や文化圏とどのように乖離しているかを視覚的に理解させる。

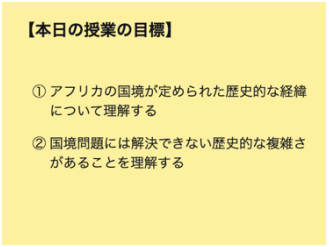
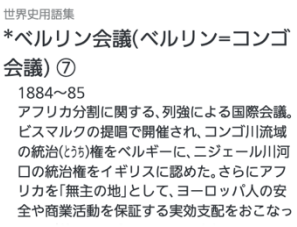
生徒向けの目標：「現在の国境線」と「実際の民族・言語分布」の地図を重ね合わせることで、国境問題には解決できない歴史的な複雑さを理解する。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

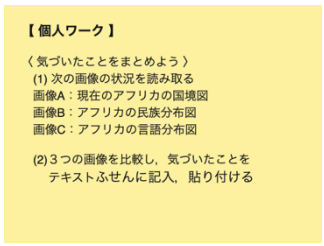
・**授業準備の時短／効率化**：板書内容や宿題をすべてデジタルノート上に用意できるため、授業準備も進行も効率化できる。

・**生徒の理解促進**：ファイルふせんやリンクふせんを活用して各種資料を表示することで、ビジュアル的に理解を促すことが可能になる。

・**協働学習促進**：同時編集機能や授業支援機能を活用することで、生徒によるグループワークを効果的にサポートできる。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1		**概要の説明** 電子黒板に「現在のアフリカ大陸の国境線のみが描かれた白地図」を大きく投影する。本時の学習目標が「地図の比較を通じて、アフリカの国境線が持つ歴史的な課題と、独立時の政治判断を理解すること」であると提示する。	
step2		**基本的な事項の確認** 教員は 19 世紀末の「ベルリン会議」に関する解説資料と、アフリカには多様な言語・民族グループが存在することを示す資料を、生徒に一斉送信する。生徒はその資料を確認し、「外部の列強が引いた線」と「現地の人々の生活圏」という 2 つの異なるレイヤーが存在することを知識として確認する。	あらかじめ作成しておいた「ベルリン会議の説明」や「現地の写真」をテキストふせんや画像ふせんを用いて用意する。また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。 ※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step3

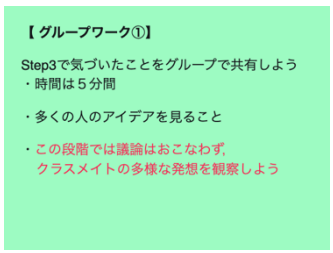


個人ワーク

教員は以下の２枚の画像をセットにして生徒に送信する。
・画像Ａ： 現在のアフリカ国境線地図（背景が透明、または線のみのもの）
・画像Ｂ： アフリカの民族言語分布図（色分けされた詳細な地図）

Step2 と同様に、教員は画像ふせん機能を用いて２枚の画像を送信する。
生徒はペン(手書き)やテキストふせんなどの機能を多用し、気づいたことを記入していく。
生徒はこれらの２枚を比較し、気づいたことをテキストふせんでコメントを書き込む。

step4

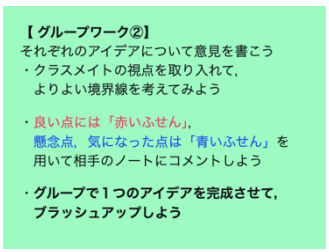


グループワーク①

step3 で各人が作成したふせんを、今度は各グループ員同士で共有する。
この段階では議論や批判は行わず、クラスメートの多様な発想（図の書き方の違い）を観察することに徹する。

ClassPad.net の画面共有機能を用いて、各自が作成した図をグループ内で共有する。

step5

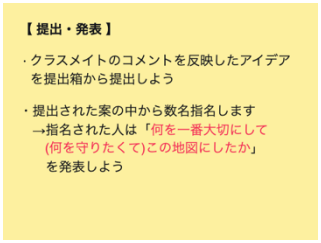


グループワーク②

教員は 1964 年のカイロ決議で確認された原則など、歴史的事実を提示する。この時に、その理由を問うような発問をおこなう。生徒はグループ内で与えられた問いについて議論をおこない、ふせんを用いて意見を出す。

デジタルふせんは意見の種類ごとに色を分けても良い。

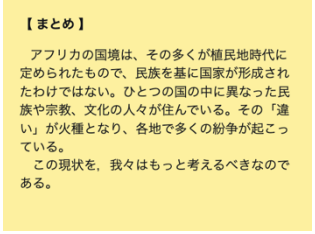
step6



代表者による発表

生徒は各グループでまとめた考察を「提出箱」に提出する。
代表生徒は自分達のグループで出した結論についての説明をおこなう。他グループの発表を聞き、自分達の視点との違いを比較する。
教員は特徴的な考察をおこなっているグループの画面を提示するなど、授業の流れに応じて柔軟な対応をおこなうことが見込まれる。

step7



まとめ・宿題

教員は、グループワークで出た考察に応じて、授業内容を総括する。また、宿題(もしくは授業の残り時間)で本時の振り返りをおこない、国境や民族に対する見方の変化についての感想を記入する。

生徒は授業を通じて自身の考えがどのように変化したか、または何を重要だと感じたかを振り返り用のテキストふせんに記述する。これを再度「提出箱」に提出させることで、個々の学習の定着度や価値観の変容を確認する。